

オープンアクセス方針説明会

平成28年6月22日(水)／6月29日(水)

京都大学図書館機構

オープンアクセスとは

- 「オープンアクセス」とは？

論文等の学術情報をインターネットから無料で入手でき、誰でも制約なくアクセスできるようにすること。

- 目的

- 研究成果へのアクセス機会の確保、知的資産の共有
- 研究成果の可視化、社会への説明責任の保証
- 商業出版社による現行の学術出版システムに対する代替システムの構築

* 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会
「学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)」より

オープンアクセスに関する政策動向

- 大学等におけるジャーナル環境の整備と我が国のジャーナル発信力強化の在り方について
平成26年8月. ジャーナル問題に関する検討会(文部科学省)
- 我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について
平成27年3月30日. 国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会(内閣府)
～「オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会」へ
- 第5期科学技術基本計画
平成28年1月22日. 閣議決定
- 学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)
平成28年2月26日. 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会(文部科学省)

オープンアクセス方針策定への流れ

<学内>

- 学位論文の保存と複写 (1997年～)
- 学術情報リポジトリ: KURENAI運用開始 (2006年～)
- 学位論文の電子公開へのアプローチ (2006年～)
- 電子ジャーナルパッケージ運用のあり方 (2010年～)
- 電子ジャーナル価格の高騰 (2011年～)
- 海外(欧米)大学におけるポリシー調査 (2014年)
- 図書館協議会、専門委員会での検討 (2014～2015年)

<学外>

- 学位論文の電子的公開の義務化 (2013年)
- G8科学大臣会合共同声明、オープンアクセス・オープンデータに言及 (2013年6月)
- RU11による海外の電子ジャーナル状況の視察(2014年)

京都大学オープンアクセス方針

- 2015年4月28日に「京都大学オープンアクセス方針」を採択。
- 京都大学の教員が生み出した学術論文等の研究成果を、「京都大学学術情報リポジトリKURENAI」によりインターネット上で原則公開することを定めたもの。

※詳しくは、図書館機構Webサイトの「京都大学オープンアクセス方針」を参照。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/content0/13092>

※以後、筑波大学、国際日本文化研究センター、九州大学、徳島大学、東京歯科大学、名古屋大学でオープンアクセス・ポリシーを策定。

オープンアクセスの意義・可能性

- 学術情報コミュニティの再構築
- 学術情報流通システムの改革
- 種々の学術情報の可視化
- 非英語圏(日本語)の学術情報の尊重
- グローバルな研究課題への転換